

## 令和8年度第3回総合計画審議会における意見要旨

### 議題（１）：第2回審議会議事要旨について

意見なし

### 議題（２）：令和8年度県民ニーズ調査結果について

- 県内には一定数の外国人が在住している。この在住外国人もニーズ調査の対象とすべきではないか。

### 議題（３）：ふくおか若者会議からの報告について

- インバウンド対策や在住外国人向けの施策が充実している一方、積極的に海外に出ていく国際交流の視点が不足しているのではないか。海外に留学する日本人が減少する中、インバウンドを呼び込むためにもアウトバウンドが必要であるという認識を持っていただきたい。
- 県では、海外にチャレンジしたい若者への支援を実施しているが、対象の若者やこどもに十分認知されていないのではないか。しっかりと発信をしていただきたい。
- インターネットの普及により容易に情報を得られるようになり、教育機会に恵まれたケースを知りすぎて、自身の現状に対して不安を感じている人が多いと思われる。日々の学校生活や暮らしの中でも、十分に成長の機会を得られることを示すことが安心につながるのではないか。
- 大学卒業後に留学する学生や、高校卒業後に国内の大学等に進学することなく留学する学生も少なくないため、教育機関等に所属していない留学希望者に対する支援の充実を図る必要があるのではないか。

### 議題（４）：人口ビジョンについて

- 九州各県からの転入者が本県の人口を支えてきたが、人口減少局面に入り、これまで通りとはいかない。九州各県の人口動態も分析したうえで、九州全体の人口移動を考慮した全体像を示していただきたい。

## 議題（５）：次期総合計画の素案について

### 〈柱１「人が育ち、共に支えあい、誰もが未来へ挑戦できる」について〉

- 出会い・結婚応援における AI の活用は民間に任せて、県はそれを支援してはどうか。また、県は、未婚者が自然と参加できるイベントの開催など、AI とは少し違う領域の支援を行う方が効果的ではないか。
- 行政が積極的に前面に出る分野と民間が主体となって進める分野をどのように整理するのか、県として大きな方向性は持っておくべきではないか。
- 今後、人口減少とともに行政のマンパワーも限られてくる。県民が安心して暮らせる環境づくりを最優先としながら、どの分野に重点を置いて取り組んでいくのかという議論も必要になるのではないか。
- こども主体の学びの最終的な目標は、学力向上にとどまらず、主権者として社会に参画する力を形成することである。主体性の醸成が始まる幼児期から小学校、中学校、高校という風に段階を追って育てていくことも踏まえながら、こどもの主体性の定義付けや検証の在り方について明確にしていきたい。
- LGBT については、個別の取組として言及するだけでなく、基本的な方向性において県の姿勢を示すことが必要ではないか。
- 「福岡県いじめレスキューセンター」は成果を上げており、次期計画においても注力いただきたい。
- 犯罪被害者の支援と併せて、加害者の更生にもしっかりと取り組んでいただきたい。
- ケアラーの支援においては、障がいのある方や高齢の方、困難を抱える方などケアの対象者の違いにも留意しながら、点ではなく横断的な支援を展開していただきたい。

### 〈柱２「産業と人材が育ち、経済の成長サイクルをつくる」について〉

- 若者が積極的に中小企業を選択するようになるためには何が必要なのか、若者会議で深掘りしていただき、次期計画の効果ある方針としてつなげていただきたい。
- 日本遺産の認定を取消された西の都について、今後の方向性を示していただきたい。また、世界文化遺産に関する記載が目立つが、他の観光資源にも目を向ける必要があるのではないか。例えば、みあれ祭や白秋祭といった地域の祭りを県民に周知するため、メディアと連携した発信を強化すべきではないか。

- 西の都は、太宰府天満宮以外の構成文化財への周遊を図ることができなかったことが、取消の一因とされている。観光の視点を加え、知事部局が中心となって動くべきではないか。
- スタートアップ支援については、個々のイベントの成否にとらわれず、資金調達やマッチング、海外展開等の支援といったそれぞれのメニューを必要とする企業が必要なときに利用できるようにしていただきたい。

#### 〈柱3「地域が結び付き、相互に発展する」について〉

意見なし

#### 〈柱4「安全・安心で、心豊かに暮らせるまちをつくる」について〉

- 分野18について、トップレベルの文化芸術公演の誘致や、質の高い文化芸術に触れられる機会の確保という記載は、多様な価値観がある中で優劣があるかのような誤解を招く表現であるため、丁寧な記載をお願いしたい。  
また、鑑賞に伴う経済的負担の軽減への言及があるが、経済的な困難を抱える人は鑑賞するだけであるかのような誤解を招く可能性があるため、主体的に創造に関わるという観点を盛り込んでいただきたい。  
さらに、全体を通して、基本的な方向性と主要な取組が整合していない。「文化芸術の力によるウェルビーイングの向上」というからには、その基本的な方向性にあるウェルビーイングの向上に関する取組をもう少し記載いただきたい。

#### 〈全体を通して〉

- 第1回審議会において、知事から次期計画はこれまでの延長線上ではなく新たな発想で策定したいとの発言があったが、素案を見る限りでは項目を総花的に並べているだけで、現計画と変わり映えしないのではないか。
- 中小企業においては経営者の姿勢が現場に大きく影響するため、県が採用支援や労働環境整備を進めても、価値観の変化やダイバーシティに対する経営者の理解が進まなければ、人材の定着にはつながらない。  
多様な価値観をもった方々が一緒に働くためには、経営者の考え方を変えるような啓発に取り組む必要があるのではないか。また、直接的なアプローチが難しければ、計画において目指す姿に盛り込んでいただきたい。
- 県政の推進には、安定的な財源の確保が不可欠。減税を含む国の財政運営の動きと地方財政への影響を踏まえ、県の財源確保の方針について整理していただきたい。